
「確かな」言葉で、「豊か」に表す生徒を育む

—新学習指導要領の実施にむけた、国語科の取り組み—

国語科 加儀 修哉

1. はじめに

「今の子供たちやこれから誕生する子供たちが、成人して社会で活躍する頃には、我が国は厳しい挑戦の時代を迎えていると予想される。」—新しい学習指導要領(以下、「新指導要領」※1)の書き出しです。

(「改定の経緯」より)

何とも暗い話題から始まります。目の前にいる生徒たちが、こういった時代を生きていくことを想像すると、胸が詰まる思いがします。ですが現実の問題として、受け入れなくてはならないのでしょうか。

さて、新指導要領はこういった時代を生きる生徒たちに身につけるべき力を整理して示しています。では、国語科の新指導要領のポイントは、どのような点なのでしょう。

2. 新学習指導要領の特徴

新指導要領の目標には「言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力を次の通り育成することを

目指す。」とあります。「資質・能力」と、身につけさせるべく力が明示された点が、大きな特徴です。

言い換えると、困難な時代を生き抜くために、確かな力を身につけさせることを見据え、知識の捉え方の見直しが行われるとあってよいのでしょうか。よく「深い学び」と言われているのは、このことを取り上げています。

また、これらを実現するために、新指導要領では内容の構成も改められました。これまでは「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」に加え、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」と、領域別に整理されていました。それらが、「知識及び技能」と「思考力、判断力、表現力等」と能力別に改められました。

例えば、スピーチを行う「話すこと・聞くこと」の学習をするとします。そのためには、「どのように話を組み立てたら、相手に分かりやすく伝えられるか」といった「話すこと・

聞くこと」の指導事項に加えて、「どのような表現を用いれば、魅力的か」といったような、「言葉の知識」の両方の技能が必要です。

これまでは、これらが「話すこと・聞くこと」の指導事項にまとめられていましたが、前者は「思考力、判断力、表現力等」で、後者は「知識及び技能で」と能力別に整理されたのです。

つまり、スピーチという一つの言語活動を取り上げても、何をどのようにすることで、具体的な力が身につけられるのかということが明確になったわけです。

さらに、「語彙」の指導の充実や、「情報」の扱いに関する項目も盛り込まれました。

ではこれらを踏まえて、世田谷中学校の国語科では、どのように授業づくりに取り組んでいるのでしょうか。

3. 「確かな」言葉で「豊かに」表すとは

本校国語科の研究主題は、「『背景』を意識して、ことばと対象の関係をとらえ、『確かさ』や『豊かさ』を育む生徒の育成」です。そのために、特に育みたい項目として次の三点を挙げています。

① 確かな言葉の力をもとにした豊かな発想・気づき

【基礎力→実践力】

② 他者との共有を行うことで見えてきた発見や創造のきっかけ

【思考力】

③ 「新たな捉え」・「創造」

【実践力】

つまり、自分の考えの発表や、作品の創作といった段階で留まらずに、新しいものの見方を獲得したり、社会生活や他の活動において活用できたりする、汎用的な力の育成を目指しています。そのための基盤となるのが、「確かな」言葉の力—言い換えると「語彙」の力を重視しています。確実に使いこなせる語彙が充実することで、思考力や判断力、表現力が往還的に高まり、「豊かに」表現できるという能力のとらえかたは、新指導要領ととても似ていると言えます。

ですがこれらの能力のとらえ方は、新指導要領実施に向けて開発されたものではなく、本校では、代々形を変えながら古くから実践されてきました。

では、こういった力を身に着けるための、本校での取り組みを授業事例から見てゆくことにします。

4. 「語彙」の力を育む、授業実践事例から

(1) 言葉による構造化（観点）と「深い学び」

以下は、71回生（第2学年）が今年1学期に取り組んだ単元の一部と、そこで重視した語彙をまとめたものです。

単元名	単元の概略	取り上げた主な語彙
文学作品を味わう 言葉たち	「おにたのぼうし」(物語)を読んで見つけた、文学作品の特徴を語る言葉を用いて「小さな手袋」を読む。	登場人物 せりふ 描写 場面設定 ストーリー展開 主題 語り 間
雑談の金言	雑談が深まる過程を劇で演じることを通じて、雑談を深める語彙を紹介しあう。	相手を尊重 白黒つけぬ 一問二答 話をちょいもり
比べて良さを問う	説明文「人間は他の星に住むことができるのか」の、筆者の論展開の仕方や述べ方を用いて、身近なことがらに問いを立て立証する。	問題提起 立証 例示 もしもそうだったとしたら～ 最初に～ こうして考えてみると～

1学期に重視した語彙の一例（71回生）

田村学^{※2}は、「深い学び」について、「それまで身につけていた知識や技能を存分に発揮し、その結果、知識や技能が相互に関連付けられたり組み合わせられたりして、構造化したり身体化したりしていくことと考えることができる」と説明しています。加えて、「（前略）知識が『ネットワーク化』していく」ことで、「個別のピースがつながって、知識の階層が質的に高まることとイメージすることができる」としています。

つまり、物語を始めとする文

学作品を読んで、感想を交流する場合を例に考えてみると次のように言えます。「登場人物」や「描写」という語彙を、作品の感想を述べる際に用いたり、友達が感想に用いたこれらの語彙を再び聞いて、それらが構造化されたり、ネットワーク化していくことが、本質的に、「深い」語彙の力を身につけることにつながります。

ここからは、今年6月に本校で行った公開研究会での実践を例に挙げます。

(2) 「笑い」の観点を言葉にする

① 単元の構想

漫才やコントなどの「お笑い」をはじめ、教室の椅子がふとしたことで倒れただけで起こる「笑い」など、一言で言っても様々な笑いがあります。ですが、その笑いがどこからやってくるのか、まず考えようとはしません。

そこで、明確に言葉で表しにくい「笑い」とはどこからやってくるのか、漫才師の漫才を考察しながら言葉にしてみようという単元を構想しました。さらに、言語化した笑いの表現の方法（観点）がどのようなものであるのか、具体的に漫才風の劇で発表し合います。つまり、言葉で明確に表しにくいことがらを言葉にしてみたり、それらを分類したり、身体化することを通じて「笑い」とは何かについて考えることを通じて、語彙を広げられないかという試みです。

② 単元の展開（6時間）

- i 漫才の映像を見て、おかしみのある部分について考察することを通じて、笑いの表現の仕方について考える。（2時間）
- ii 漫才からみつけた笑いの表現の仕方を用いて、漫才風

に笑いを発表することを通じて、笑いの表現の仕方について具体化し言葉に表す。

（3時間）

- iii 笑いの表現について振り返ることを通じて、笑いとは何かについて考える。

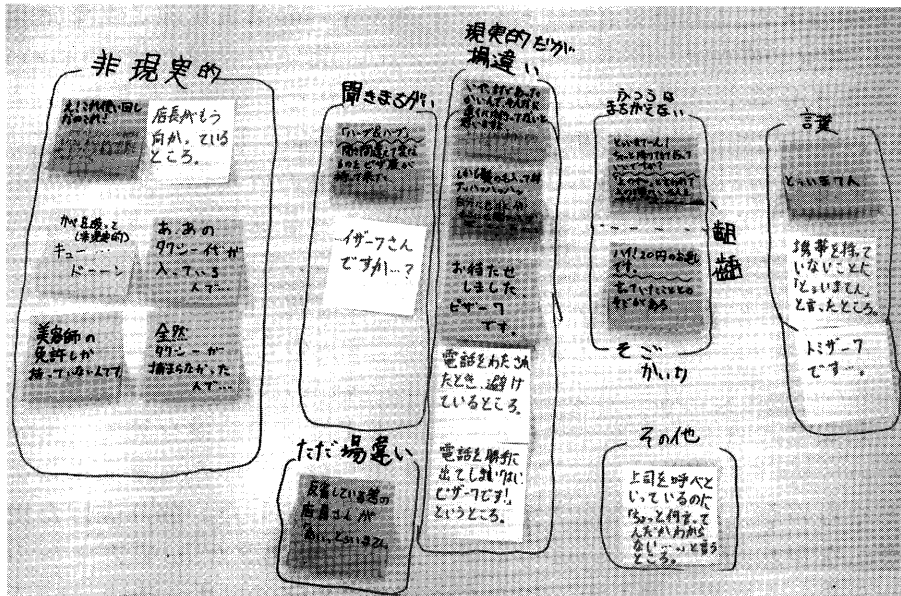
（1時間）

③ 単元の実際

i 笑いの表現の仕方の言語化

まず漫才の映像を見て、笑いを楽しむところから単元をスタートさせました。取り上げた漫才は、サンドウィッチマンの「ピザのデリバリ-2010」※3です。クラスの約8割の生徒がこの漫才師について知っていました。通俗的な表現も多く、教材として用いることに躊躇いもありましたが、笑いの表現の多様さからこの作品に決めました。

漫才の視聴後は、漫才を文字に起こしたのも用いて、おかしみを感じた表現や場面を、付箋に記入させました。そして「非現実的」や「齷齪」「場違い」などのように、小グループで分類しながら、笑いの表現の仕方について言語化していきました。この段階では、うまく言葉にまとめられない笑いもありました。次の写真は、その分類をまとめたものです。



笑いの表現の仕方の分類

ii 笑いの表現の仕方の考察

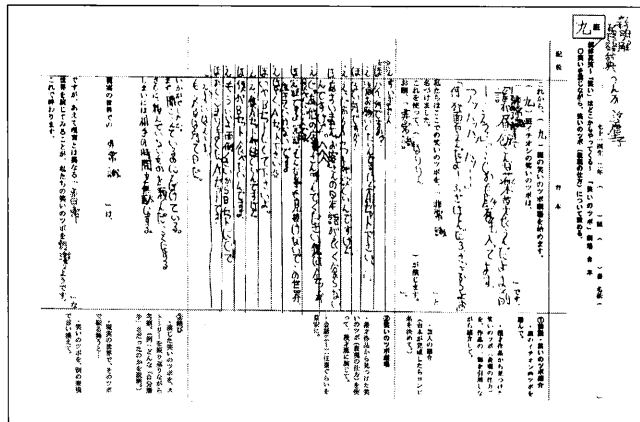
～漫才風発表会～

次に、笑いの表現方法のなかで、最もおかしみを感じた一つを用いて、笑いの表現の仕方（語彙）を、漫才風の笑いで紹介する台本を作り、グループで発表し合いました。台本化したり、劇化したりするなかで、自分たちの班の笑いを表す言葉を、類語辞典も用いながらまとめました。

（右図）

この班は、魅力的な笑いの表現の仕方を「非常識」

という語彙でまとめました。そして、店員と客のやりとりの中で、「聞こえているのにとぼけている」、「頼んでいないものを頼んだことにする」、「相手の時間を無駄にする」という「非常識」さを、具体化して演



笑いのツボ劇場 台本

じました。(P12 板書の写真参照)

iii 笑いとは何かの追及

発表を終えて、興味深い事実を生徒たちに伝えました。サンドウィッチマンの漫才で、特におかしみを感じた場面が、何と七つの班で同じだったのです。ですが、それぞれの班が言語化した笑いの表現の仕方は、班毎に異なっています。(下図)これを踏まえて、「笑いはどこからやってくるのか」について、個々がノートに書きました。

「笑いは、普段自分が生きている世界との対比で生まれる。」

「笑いの中には様々な要素や原因がある。僕は、ダジャレを言っている途中に、笑っている人が偏っていることに気づいた。しかし、他のネタでは違う人が笑ったりする。人を笑わせるにはその人それぞれのツボを理解(中略)するのがいい。人を笑わせられる人は、人を見れる人。」

ここでの「対比」、「要素」、「人」のように、始めの分類の段階では表せなかった、また新たな語彙で言語化する姿がありました。

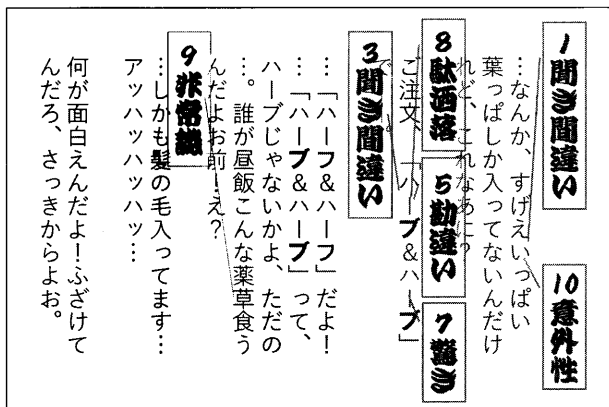
言葉で表しにくい「笑い」を、観点をもとに言語化したり、身体化したり、さらにそれらを結びつけたりするなかで、少なからず語彙が広がったり、深まったりする様子が見えます。

5. おわりに

どんなに時代が変わっても、言葉で考えたり、伝えたりする、言葉の力は普遍的に必要なものです。そのためにものごとを「確かに」「豊かに」ことばにできる生徒の育成にむけ、実践・研究をすすめてまいります。

【参考文献等】

- ※1『中学校学習指導要領解説(国語編)』文部科学省(2018)
- ※2『深い学び』田村学(東洋館出版社 2018)
- ※3『サンドウィッチマンのエンタねたvol.4』(バップ2010)



おかしみを表す語彙の違い

